

山口県隊友会総会・懇親会開催

第31航空群司令
が講演

7月6日(日)10時から山口市のホテル常盤において、令和7年度山口県隊友会総会が開催され、宇部支部から4名が参加しました。

総会では隊友会の活動にご尽力された方々に対して表彰状が贈呈され、宇部支部から宮地さん(中央)、富永さん(山口県)が表彰されました。その後、理事会で決定した内容を落合会長から紹介され、引き続いて「海上自衛隊の任務と装備」という演題で、第31航空群司令 石川一郎海将補による記念講演が約1時間にわたって行われ、後半は様々な四方山話をユーモアたっぷりに話されました。

12時30分からは懇親会が行われ、自衛隊関係者も多数参加しました。落合会長の主催者挨拶の後、来賓の方々に祝辞に続き山口県議会議員 合志栄一氏による乾杯で懇親会がスタート。昨今の我が国周辺の安全保障環境の変化、自衛官の処遇改善、厳しい募集環境、現在の自衛隊の現況などについて、相互に意見を交換しました。最後は、山口県家族会会長 和田和利氏の万歳三唱で締め括りました。



主催者の挨拶をされる落合会長



講話をされる海自岩国基地の第31航空群司令



最後の挨拶をされる山口県家族会会長 和田和年氏



総会に寄せられた多数の祝電。ヒゲの隊長の祝文も。

令和7年度の観艦式中止か？ 自衛隊創隊初

先日、「防衛省が今秋、神奈川県沖の相模湾で予定している観艦式の中止を検討していることが6月24日、複数の政府関係者への取材で分かった。」との報道がありました。昭和26年から続く観閲式等(観閲式、観艦式、航空観閲式)が中止されるのは、長い歴史の中で初めての事です。以下、中止に至った背景等について考察していきます。

観閲式等は隊員の使命の自覚及び士気の高揚を図るために毎年開催されています。個人的には、日本の軍事力・軍事技術を内外に誇示する目的もあるものと思われます。その歴史は、自衛隊発足前の1951(昭和26)年に東京の越中島駐屯地で初めて開催され、その後も毎年開催されてきました。また、平成8年度以降は阪神淡路大震災の影響で災害派遣への対応が増加、部隊の負担軽減及び警戒・監視等対処のため、陸海空の持ち回りで開催されるようになりました。

1989(平成7)年に旧ソビエト連邦が崩壊、その後、中国の海洋進出が始まり、近年では太平洋進出など活動が顕著になりました。自衛隊の対応も対ロシア(旧ソ連)から対中国へ徐々にシフトされ、今回の観艦式中止になったようです。

自衛隊OBとして総火演の部外公開・観艦式等の中止は、自衛隊をPRする機会が減少し自衛官の採用活動にも多大な影響があり残念至極ですが、周辺諸国や国内情勢等を鑑みると、致し方ない事なのかもしれません。

国外情勢 (周辺諸国情勢)	国内情勢	自衛隊 (観閲式) の状況
1945年 戦争終結 ↓ 米ソ冷戦	1951年 サンフランシスコ条約加盟	1951年 初の観閲式
1989年 旧ソ連崩壊 ↓ 中国の台頭	1960年 日米安保闘争	1954年 自衛隊発足 ↓ 以降、観閲式等は毎年開催
2012年頃 中国の顕著な海洋進出 ↓ スクランブル、哨戒活動等 が対中国へ徐々にシフト	1995年 阪神淡路大震災 2004年 鳥インフルで初の災害派遣 ↓ 災害派遣のハードルが 下がり行政分野における 活動にも範囲が拡大	陸海空の持ち回り開催 ↓ 2019年～ 南西諸島に部隊配置 ↓ 観艦式中止
2020年頃～ 台湾周辺事態緊迫		